

完全デザインデータ 制作の手引き

印刷 安心のデータ入稿からプロ印刷
おまかせ.com

<http://www.insatsuomakase.com/>

目次

印刷の基礎知識

用紙サイズ	3
用紙の種類について	4
カラーモード (RGB カラーと CMYK カラー) の違い	5
仕上がりサイズ (トンボ) と塗り足しについて	6
インク総量の制限について	7
デザインデータに配置するデジタルカメラ画像の解像度について	7
デザインデータに配置するデジタルカメラ画像のカラーモードについて	7
Adobe アプリケーションのカラー設定について	7

デザインデータ作成時の注意点

Adobe Acrobat 編

PDF 形式の対応について	10
共有 PDF プリセットによる安定した PDF 書き出し	10
Illustrator から直接保存した PDF のサイズについて	10
標準プリセット使用時の注意	11
セキュリティについて	11
Adobe Creative Suite2 より以前のアプリケーションからの PDF 作成	11

Illustrator 編

カラーモードについて	13
トリムマーク (トンボ) 作成	14
フォントとアウトライン作成	15
特色 (DIC・スポットカラー) について	16
ヘアラインについて	17
リンク画像	18
レイヤーについて	18
オーバープリントについて	19

Photoshop 編

カラーモードについて	21
画像サイズと解像度について	21
Photoshop での塗り足し	23
レイヤーについて	24
クリッピングパス (切り抜きマスク画像) について	25
保存形式	25

Office 編

色が変わる	27
塗り足しについて	27
フォントが置き換わる	28
意図しない改行が発生する	28
透明効果について	28

～完全データのご入稿をして頂くために～

ご入稿いただいたデータに手を加えること無く印刷することで、納期や価格を設定しております。データ修正や再入稿等が必要になった場合は、修正料の追加や納期が延びることがございます。ご希望の料金や納期に間に合わせるためにも、データ作成時には本ガイドを是非ご活用ください。

印刷の基礎知識

用紙サイズ

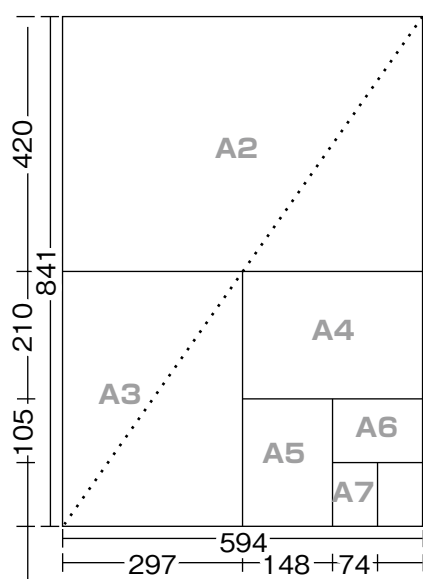
用紙のサイズは一定の法則にもとづいて決められています。それぞれの面積の違いはありますが、タテ、ヨコの比率はすべて同じになっています。

一番大きなサイズがA1、もしくはB1を示しています。その長辺を半分にしたものがA2もしくはB2になります。さらにその半分がA3もしくはB3になります。

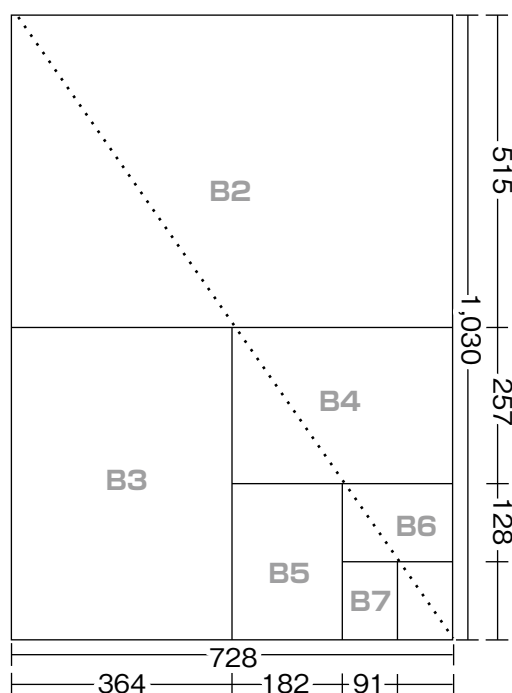
種類	寸法	種類	寸法
A 0	841 × 1,189	B 0	1,030 × 1,456
A 1	594 × 841	B 1	728 × 1,030
A 2	420 × 594	B 2	515 × 728
A 3	297 × 420	B 3	364 × 515
A 4	210 × 297	B 4	257 × 364
A 5	148 × 210	B 5	182 × 257
A 6	105 × 148	B 6	128 × 182

その他のサイズ	
名刺	55 × 91
ポストカード	100 × 148
往復ハガキ	148 × 200
長 3 封筒	120 × 235
角 2 封筒	240 × 332

A 列、B 列 (JIS 規格サイズ)



A 列



B 列

用紙の種類について

弊社では、基本取り扱い用紙をコート紙、マットコート紙、上質紙を主流として、フライヤー、リーフ、パンフレットなどの商品をご案内しております。

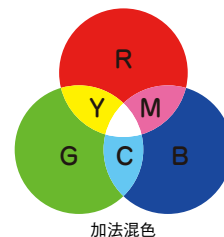
ポストカードや名刺に最適な厚い用紙までの幅広い紙厚をご用意しております。印刷用途に合わせてお選びください。

紙種	紙種の説明	主な用途	紙厚の種類
コート紙	上質紙、中質紙の表面にグロス系の塗料を塗布することによって、表面を滑らかにし、インクの乗りをよくした紙です。 やや光沢があり、普通紙より高級感のある用紙となっています。	写真などが入っているカタログ、新聞折込チラシ、パンフレットなどに使用します。	73K・90K 110K・135K
マットコート紙	上質紙、中質紙の表面にマット系の塗料を塗布し、光沢を抑えたしっとりとした質感のある用紙です。 光沢が少なく、高級感があります。欠点は印刷後のインキが乾きにくく、インキを多量に使用するようなデザインには向きません。	ツヤのない落ち着いた雰囲気のカatalog・チラシ・雑誌の表紙・パンフレットなどに使用します。	70K・90K 110K・135K
上質紙	表面、裏面ともコートされていない、ざらざらした光沢のない用紙です。印刷用紙中で最も汎用性に富み、筆記性にとても優れています。 インキのにじみなどが発生しやすい欠点があります。	書籍の本文・単色のチラシ・広報紙などに使用します。	70K・90K 110K・135K
アートポスト紙	コート紙より厚い紙で、表裏両方同じように表面加工しており、表面が滑らかで、強い光沢のある紙です。 印刷に適しており、写真をよりキレイに見せることができる高級紙です。	ポストカードやカタログ・カレンダーなど、色彩を美しく表現する印刷物に最適です。	180K
マットポスト紙	コート紙より厚い紙で、表面はしっとりとしていて光沢がありません。 高級感のある落ち着いた雰囲気の効果が得られます。	カタログ・チラシ・雑誌の表紙、パンフレットや会社概要などに使われます。	180K
ミラーコート紙 (キャストコート紙)	表面が鏡のような光沢があることから、ミラーコートと呼ばれています。印刷・加工の適正も高く、色鮮やかな仕上がりになる用紙です。	カード・DMなど、つやつやした高級感を出すカラー印刷、シールなどに使用します。	180K
高級白板紙 (高板)	表・裏面にパルプを使用し白色の塗工を施した厚めの用紙です。曲がりにくく、コシがあります。	出版物の表紙、卒業アルバム、高級パッケージなど。印刷おまかせ.comでは、紙うちわに使用。	465g/m ² 相当、 厚さ0.5mmを使用。

カラーモード(RGB カラーと CMYK カラー)の違い

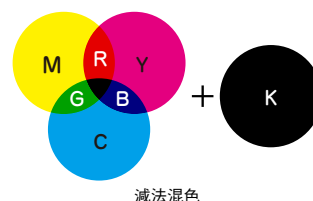
RGB カラー

パソコン上での画像データは通常 RGB (レッド・グリーン・ブルー) という光の三原色で表される表現仕様です。赤・緑・青 (RGB) の 3 色が掛け合わされることで白に近づきます。(色が混ざるほど明るくなり、白に近づくため加法混色とも言います)



CMYK カラー

CMYK(シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック)は、シアン・マゼンタ・イエローよる色の三原色で混ぜれば混ぜるほど明度が下がり黒に近づくので減法混色とされています。印刷では、黒い部分を引き締めるためにブラックを追加して CMYK の 4 色で最終的な色を表現しています。



スポットカラー(特色)

特色は、印刷においてプロセスカラーでは再現できない色を表現するために調合されたインクです。スポットカラーとも言います。蛍光色やメタリックカラー、パステルカラーや鮮やかなオレンジといった、鮮やかさにこだわらなければプロセスカラーでも再現できる色も存在します。特色印刷をする際は、DIC や TOYO、PANTONE といった特色インクメーカーの色見本帳で指定します。

【 RGB データでの入稿が増えています 】

デジタルカメラが普及し、お客様のほとんどが Office 系ソフトを使用されていることもあり、写真やイラストが RGB カラーデータのまま貼り込まれて入稿されるケースが増えています。デジタルカメラで撮影されたデータや Office 系ソフトで作成された画像データはすべて RGB データです。RGB 画像の CMYK 変換は社内のシステム機能で変換が出来ますが、CMYK モードの色表現領域が RGB モードに比べると狭いので、印刷用に変換すると一般的に色がくすんだり、K(墨)版のバランスの関係で自然な階調が失われたりします。

⚠【ご注意下さい】

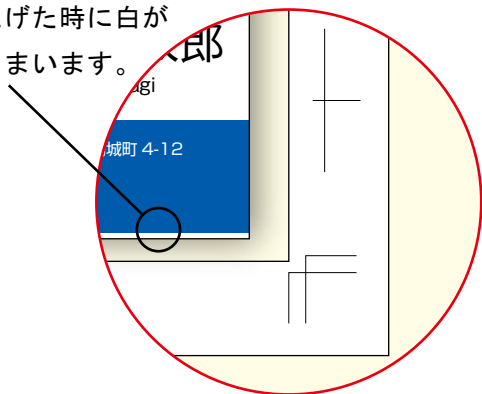
印刷時に RGB データは、CMYK カラーに変換されます。RGB カラーは CMYK カラーよりも色再現領域(カラースペース)が広く、CMYK カラーに変換すると表現できなくなる色が出てくる為、一般的にはくすんでしまったようになります。



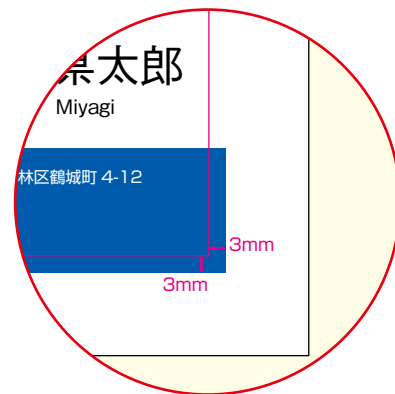
仕上がりサイズ(トンボ)と塗り足しについて

トンボとは、印刷物を断裁する位置を表すために必要となるものです。パソコンなどから一般のプリンターにプリントアウトする場合は、通常予め決まった大きさの紙(A4/B4/A3など)に行いますが、印刷の場合はシステム上少し大きめの紙に印刷し、最後に仕上がりサイズに断裁します。「塗り足し」とは、仕上りサイズのギリギリまで画像や塗りなどがデザインしている場合、必ず仕上りサイズより3mm程度外側まで絵柄等を伸ばします。これを「塗り足し」と言います。「塗り足し」が無い場合、裁断した際、意図しない余白が出来てしまいます。

※仕上げた時に白が出てしまいます。



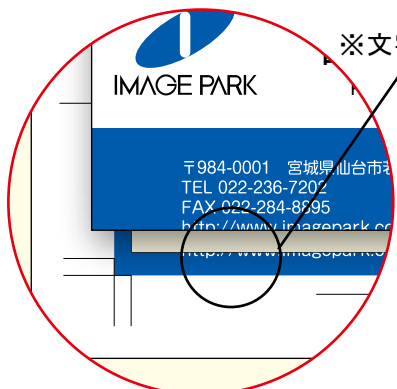
✗ 断裁が外側にズレた場合



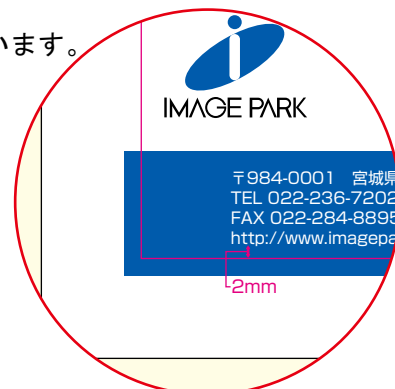
○ 塗り足しを 3mm 確保

⚠【ご注意ください】仕上り位置にギリギリに文字データがある場合

文字や図形などは塗り足しに出してしまっても仕上りサイズのギリギリに配置されていてもトラブルの原因になります。左下の図のように断裁線付近に文字が配置されていると、断裁ズレによって文字などが切れてしまうおそれがあります。そのため、下の図のように仕上がり線より2mm程内側に配置します。



✗ 断裁が内側にズレた場合



○ 2mm 内側に文字配置

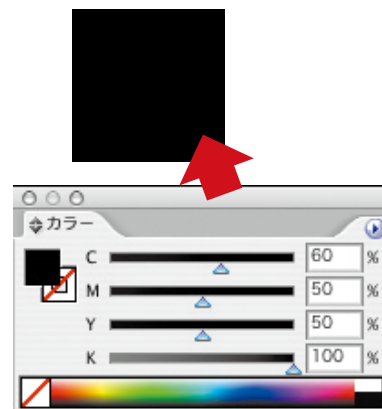
インク総量の制限について

インク総量とは、各インク（CMYK）の濃度を総合計したものです。CMYK 濃度の総合計は 400% ですが、300% を超えるあたりから、よごれが生じたり、きれいに印刷できない場合（裏写り、色が他の面に写るなど）があります。

そこで、安定した発色を得るためにインク総量を制限する必要があります。

画像やオブジェクトなどを CMYK の 4 色にした時、4 色合計で 280% 以下（上質紙の場合は 190% 以下）をお勧めします。

（例として）CMYK の総量 260% = C60% / M50% / Y50% / K100% など



デザインデータに配置するデジタルカメラ画像の解像度について

デジタルカメラのデータは画素数とは別に基本的に 72dpi の解像度となっています。

印刷する場合の解像度は約 300 ~ 360dpi 必要になりますので、各アプリケーションに直接配置する場合、20 ~ 24% 程度縮小すると印刷に最適な解像度になります。

（例として、600 万画素クラス（2816 × 2112 ピクセル）のデータを直接貼り込む場合、原寸の 72dpi で約 99 センチ × 74 センチになります。アプリケーション上で 20% 縮小すると、画像サイズが約 20 センチ × 15 センチとなり、360dpi 相当になります。）

デザインデータに配置するデジタルカメラ画像のカラーモードについて

デジタルカメラデータは基本的に RGB カラーの JPEG 形式となっています。RGB カラーのまま配置しての入稿の場合、弊社のシステムにて RGB から CMYK 処理を行います。変換時に色が濁り、お客様がイメージしたカラーに再現されません。

画像を配置する場合、事前に Adobe Photoshop などのアプリケーションにて【CMYK カラー】への変換をお願いいたします。

また RGB 画像を Illustrator の書類に埋め込みした場合、Illustrator 上で埋め込み画像選択後、フィルタにて CMYK 変換をおこなっての入稿をお願いいたします。

Adobe アプリケーションのカラー設定について

RGB カラーから CMYK カラーへの変換ですが、各アプリケーションの【カラー設定】で変換時の色味が変わります。

各地域・印刷用紙によって仕様が異なりますが、日本仕様では CMYK の設定に【Japan Color 2001 Coated】を選んでおきます。

※ Adobe Bridge の各バージョンでカラー設定にて【一般用 - 日本 2】で統一していただければ、同一バージョン上で同じカラー設定になりますので、各アプリケーションごとに再度設定する必要はありません。



←※例
PhotoshopCS3 のカラー設定



↑※例
IllustratorCS3 のカラー設定



←※例
Adobe Bridge CS3 のカラー設定

PDF 入稿について

Adobe Acrobat 編

PDF 入稿について Adobe Acrobat 編

PDF 形式の対応について

当社ではデータの軽い PDF での入稿をお客様に勧めております。

メリットとして、フォントの埋め込みによる出力時の文字化け等の不都合がない上に、データ量が少ない、ファイルの管理が楽と良いことばかりですが、作成方法をよく知らないミスが生じます。

当社では Illustrator の編集機能を保持していない PDF データや他のアプリケーションから書き出された PDF の修正は、現時点で行えません。

⚠ データのノセについて

PDF データの場合、データのノセ設定を活かした状態で処理されますので、最終のデータは保存前に『ブラックオーバープリント』設定を行う必要があります。当社のシステム上で行う自動スミノセですが、PDF データに関してはデータの『ブラックオーバープリント』がない場合はケヌキでの印刷となります。

共有 PDF プリセットによる安定した PDF 書き出し

Adobe Creative Suite 2 以降から共通プリセットによる書き出しが可能です。

同一バージョンの各アプリケーションで同じ書き出し方法が選べるようになっています。

各プリセットの詳細	
最小ファイルサイズ	ネット用なのでカラーがすべて RGB に変換され、画像が低解像度となりますので、印刷に向きません。
高品質印刷	カラーインクジェット・レーザープリンタなどに向いています。RGB・CMYK カラーモードは保持したまま変換されません。オフセット印刷で表現出来ない色が含まれています。
プレス品質	色分解やデジタルプリント用。カラーは CMYK またはスポットカラーに変換されます。
PDF/X-1a:2001	ハイエンド印刷会社向け。フォントが埋め込まれます。透明効果が分割されます。
PDF/X-3:2002	ハイエンド印刷会社向け。フォントが埋め込まれます。透明効果が分割されます。データ上のカラーマネジメント（配置したデータも含む）が活かされます。

Illustrator から直接保存した PDF のサイズについて

Illustrator の PDF のサイズはお客様が作ったデータの大きさではなく、ドキュメント設定の『アートボードサイズ』となります。

アートボードサイズのマスクが掛かった状態になりますので、アートボードよりはみ出している部分は PDF として認識されません。

裁ち伸ばしを活かすように PDF を作る場合、『アートボード』から上下左右各 3 ミリ大きく作ってからの PDF 保存となります。

PDF 入稿について Adobe Acrobat 編

標準プリセット使用時の注意

PDF 保存時の5つのプリセットですが、当社の印刷向けプリセットは【 PDF/X-1a:2001 】となります。しかし初期設定で“断ち落とし”が“0ミリ”の設定になっていますので、【トンボと断ち落とし】のメニューを選び、“断ち落とし”の数値を各“3mm”と入力します。

セキュリティについて

PDF 書類にパスワードをかけることが出来ますが、当社のシステム上で処理できない場合がありますので、パスワードはかけないでください。

Adobe Creative Suite 2 より以前のアプリケーションからの PDF 作成

Illustrator の場合、安全な PDF を作成する方法は Adobe Acrobat Distiller を用います。フォントのアウトライン、データのノセの設定、カスタムカラーの削除などを行い、eps 形式での保存を行います。

Acrobat Distiller を立ち上げ、デフォルトの設定を“PDF/X-1a:2001 (日本)”にして、作った eps データを処理すると、問題がなければ eps と同一階層上に PDF が作成されます。

デザインデータ作成時の注意点

Illustrator 編

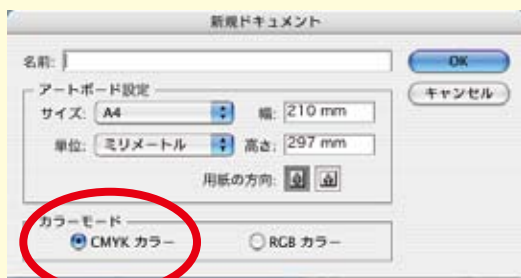
デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編

カラーモードについて

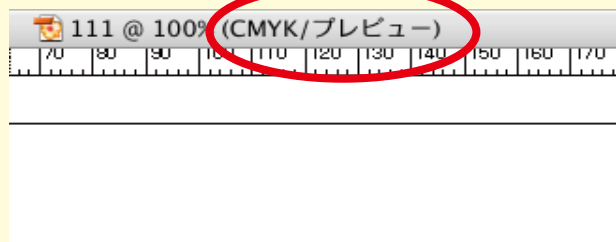
印刷用デザインデータを作成する場合、「CMYK カラー」で作成してください。印刷では、RGB カラーが使えませんので、必ず CMYK カラーで作成してください。ドキュメント作成時に設定するか、ファイルメニューの『書類のカラーモード』から変更が可能です。

👉 カラーモードの設定

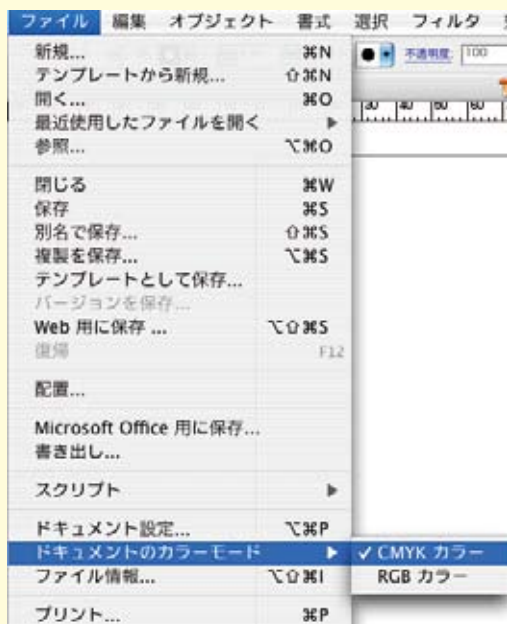
新規ドキュメント作成時



現在のカラーモードが表示されています。



書類のカラーモード



デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編

トリムマーク（トンボ）作成

Illustrator では必ず『トリムマーク』を作成します。

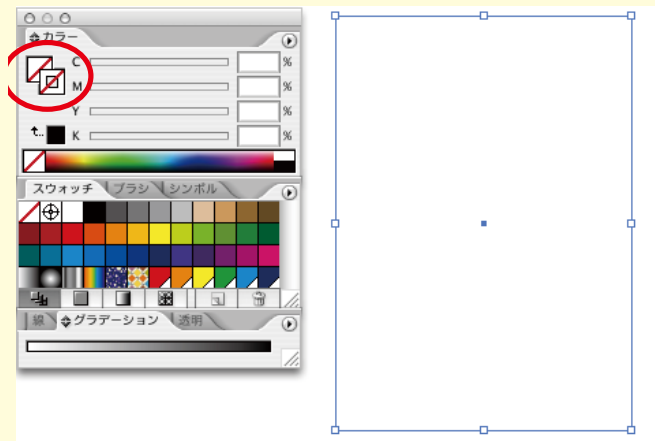
トリムマークは印刷物の制作を行う際に目印となるマークのことです。
このトリムマークがないと仕上がりや断裁の位置がわからなくなります。

※ CS4 をご使用の場合、トンボ作成後、アピアランスの分割をかけて下さい。
アピアランスの分割をかけないと、設定したトンボがオブジェクトとして認識されません。
(長方形を選択→「効果」→「トリムマーク」長方形を選択→「オブジェクト」→「アピアランスを分割」)

トリムマークの作成方法

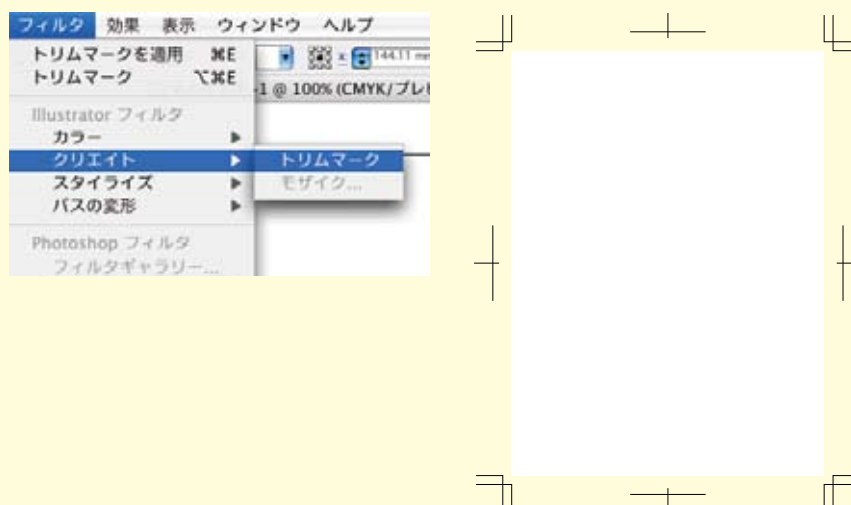
①長方形を作る

仕上がりサイズの長方形を作成します。図形作成時「塗り」と「線」の設定を「なし」にします。



②トリムマークを作る

長方形を選択したままの状態、「フィルタ」のメニューからクリエイト→トリムマークを選択します。



デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編

フォントとアウトライン作成

パソコン上で入力される文字には様々な文字情報が存在します。

この文字そのものは作成されているパソコン本体から読み出されているため、作成ファイルのやりとりだけでは文字が正しく表示されないこと（文字化け）がほとんどです。

アウトライン化を行うことによって、フォントが画像情報として認識され文字化けを防ぐことができ、お客様のデータどおり印刷されます。

Illustrator には、フォントのアウトラインを作成する機能がありますので、そちらを利用してアウトラインを作成します。

アウトラインの作成方法

①文字を選択



②「文字」メニューから「アウトライン」を選択



③文字のアウトラインが作成されます。



【ご注意下さい】

※アウトライン化するとフォント情報が失われます。「上書き保存」をすると再度そのデータの文字編集するのが大変困難になります。保存をするときは必ず「別名で保存」を選び、「アウトラインしたもの」と、「していないもの」とを区別できるファイル名にしておくことをおすすめいたします。データを入稿する時にはアウトライン化したデータをお送り下さい。

※アウトライン化するフォントオブジェクトを選択するには、ひとつひとつ選択していく方法もありますが、「全てを選択」（コマンドキー +A）してアウトラインをかけますと、選択されているすべての文字情報が一気にアウトライン化されます。その際、全てのレイヤーロック、オブジェクトのロックを解除してからアウトライン化してください。

（ロックされていたり、非表示の状態のフォントがあると、その部分はアウトライン化されなくなってしまいます。）

※テキストを打った時にできる余分なアンカーポイント（孤立点）は削除して下さい。

デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編


特色 (DIC・スポットカラー) について

使用するインキには、CMYK4色を掛け合わせた『プロセスインキ』とあらかじめ色を調合してある『特色』の二つの種類があります。

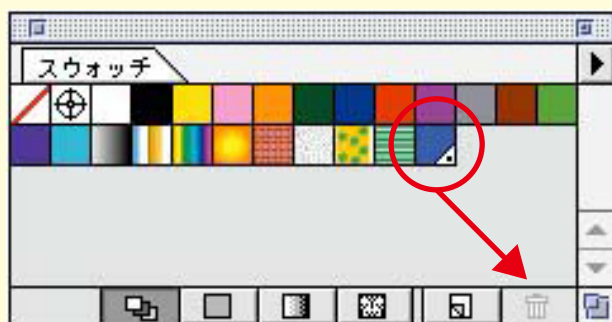
弊社での印刷はすべて『プロセスインキ』による『プロセスカラー』での印刷と「DICCOLOR(大日本インキ化学工業)」などのスポットカラー印刷があります。

※チラシ・フライヤー印刷 [特色] をご利用の際は、使用する特色をそれぞれ CMYK いずれか 1色に置き換えて下さい。

特色から CMYK カラーへの変換

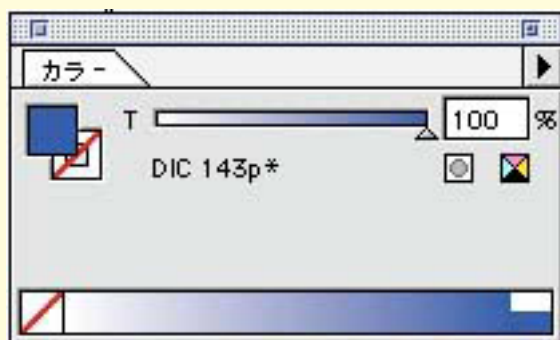
Illustrator では使用している特色 (DIC など) がスウォッチのパレットに表示されます (図①)。この  マークがついたカラーを捨てれば、使用している特色は自動的に CMYK の近似色へ置換されます (図②)。ただ特色には CMYK では表現できない色も含まれていますので、置換時は色の変化にご注意ください。特色が残った状態で入稿されたデザインデータは、自動的に CMYK 変換されますが色の変化については確認しておりませんのでご了承ください。

図①

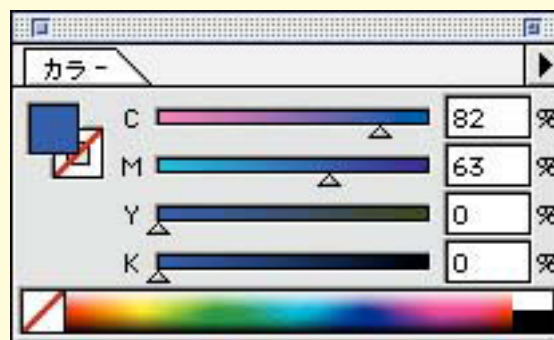


スウォッチに登録されている特色をゴミ箱へドラッグします。

図② 特色



CMYK カラー



変換

特色 (DIC) がスウォッチパレットから削除されカラーが CMYK で表現されます。

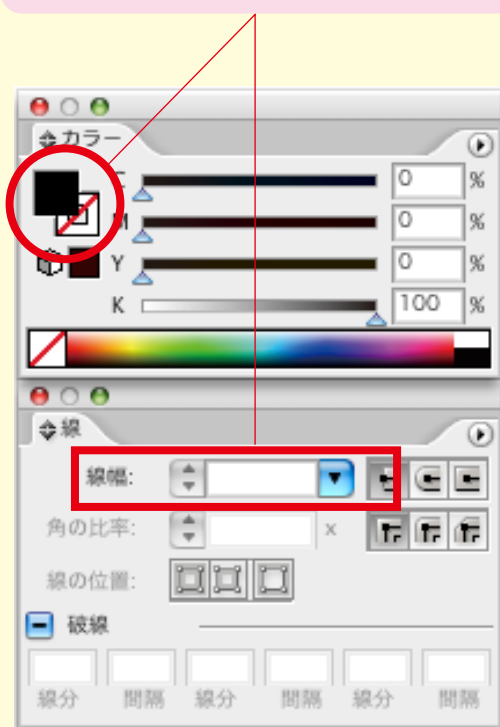
デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編

ヘアラインについて

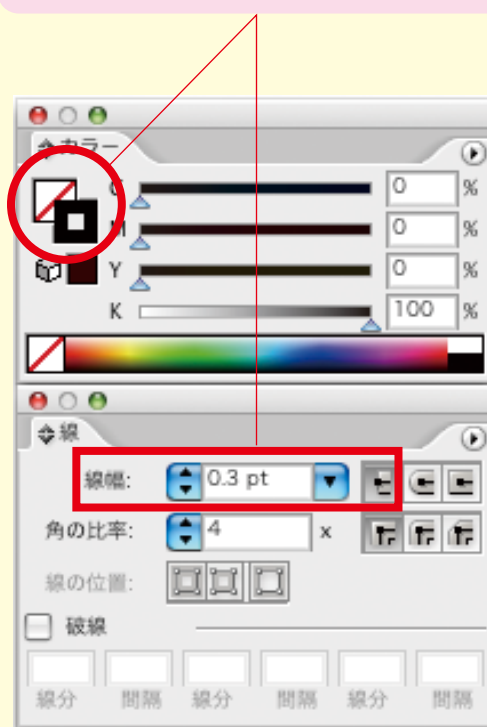
線を作成する時は、カラーパレットの「線」の部分に色の設定をしなければなりません。しかし、「塗り」だけに色の指定をして、「線」には色の指定をせずに作成することで、「ヘアライン」の状態になってしまいます。画面やプリンタでは、ある程度の太さのある線として表現されますが、本機による印刷では、かすれたり消えてしまったりします。また、線幅が「0.25pt」以下の設定の場合、ヘアラインと同様、かすれなどの原因となりますのでご注意ください。

罫線の設定

カラーパレットでこの様な設定になっていると印刷時に罫線がかすれたり、消えたりします。



罫線の設定は「線」色を設定し「線幅」は 0.3pt 以上にして下さい。



デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編

リンク画像

Illustrator で画像を配置する場合は、解像度 350pixel/inch でカラーモードが CMYK の画像をリンクさせて下さい。

通常デジカメで撮影した画像は RGB モードで、なおかつ解像度が 72dpi しかありませんが、画面上ではきれいに見えます。しかし、印刷に耐えられる解像度ではないので、実際の刷り上がりが粗いものになってしまいます。

Illustrator でリンクさせた画像は、必ずデザインデータと一緒にフォルダに格納して入稿して下さい。

Illustrator9.0 ~ CS1 をご使用の場合、画像は必ず埋め込んで下さい。

(画像を埋め込むと、画像を Illustrator データと同じフォルダに格納する必要はなくなります。)

レイヤーについて

レイヤーはデータを作成する上で非常に便利な機能ですが、重なり順には注意が必要です。

また、保存されたデータに不可視の状態（非表示）レイヤーがあると、仮に必要な情報でもその部分は何も表示されないまま印刷されてしまいますので、レイヤーの表示・非表示にも充分ご注意ください。

なお、こちらもトラブルの元となりますので、レイヤーオプションは変更されないようお願い致します。

デザインデータの作成の注意点 Illustrator 編

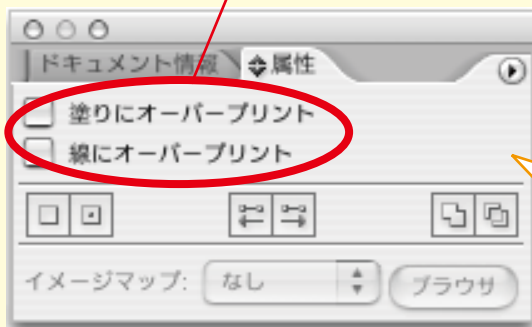
オーバープリントについて

機能の中に「オーバープリント」という設定があります。上に乗ったオブジェクトや色、下になったオブジェクトや色も、両方とも混ぜ合わせた形で出力されるものですが、画面上では確認出来ず、トラブルの原因となります。

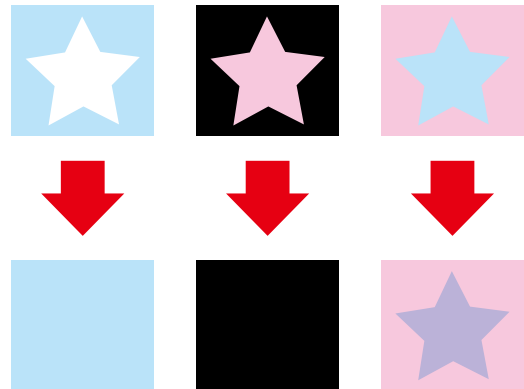
オーバープリントの設定は行わないようにお願いします。

👉 オーバープリントの設定

この部分はチェックを入れないで下さい。



オーバープリント OFF

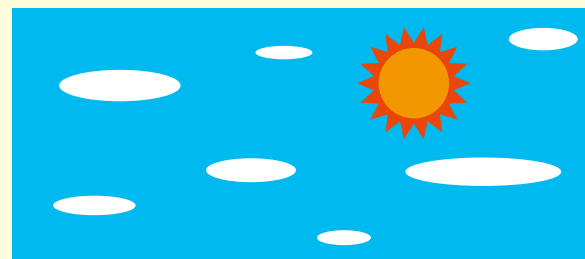


オーバープリント ON にするとこの様になってしまいます。

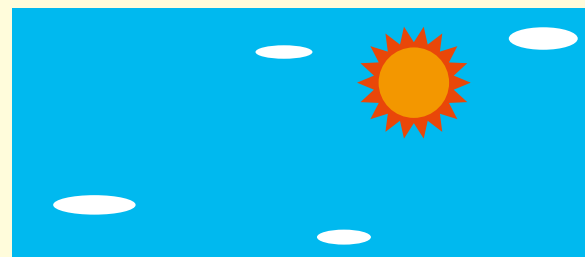
トラブルを防ぐためにも、ご入稿前に「オーバープリントプレビュー」のご確認をお願いします。

表示	ウィンドウ	ヘルプ
アウトライン		⌘Y
オーバープリントプレビュー		⌘⇧Y
ピクセルプレビュー		⌘⇧Y
校正設定		
色の校正		
ズームイン		⌘+
ズームアウト		⌘-
全体表示		⌘0
100% 表示		⌘1
境界線を隠す		⌘H

通常の画面



オーバープリントプレビュー



デザインデータ作成時の注意点

Photoshop 編

デザインデータの作成の注意点 Photoshop 編

カラーモードについて

デジタルカメラなどの画像ですが、ほとんどが RGB モードとなっております。

印刷に適したカラーモードは用途により異なりますが、モノクロ2階調、グレースケール、CMYK カラーの3種となります。

特色カラー印刷向けの入稿として画像がダブルトーンのカラーモードのものは特色印刷として入稿出来ません。

特色1色扱いで作成されても弊社のシステム内部の処理でプロセスカラー4色に変換いたします。

入稿時のデータはグレースケールもしくは CMYK 版の差し替えするカラーでの制作をお願いいたします。

画像サイズと解像度について

インターネットのホームページ用の画像は、ほとんどが 72dpi の解像度ですが、きれいに表示します。これはパソコンのモニタの解像度自体が低いからです。

印刷物は色の網点を組み合わせて、色を表現するため、正しく網点ができる解像度がないと、ジャギーが目立つ印刷物となってしまいます。

印刷向けのグレースケール、CMYK カラー画像データの解像度は、各アプリケーション上で配置・埋め込みする原寸サイズで 300 ~ 350dpi が必要となります。Illustrator などレイアウトソフト上で色が付けられるモノクロ2階調画像データは原寸で 1,200dpi 必要となります。

※低い解像度のものを無理矢理解像度を上げて画像がぼやけるだけです。できるだけ編集時から解像度の高いものをご使用下さい。

Photoshop で印刷用デザインデータを作成する場合、印刷時のサイズに合わせた画像サイズと解像度が必要です。

デザインデータの作成の注意点 Photoshop 編

画像サイズと解像度の設定

実際に A4 サイズのフライヤーの台紙を作っていきます。

サイズ	幅 : 21.6cm 高さ : 30.3cm
解像度	350pixel/inch
カラーモード	CMYK カラー 8bit
キャンバカラー	白

※仕上がりサイズに上下左右 3mm ずつ足して下さい。(塗り足し分です)

A4 サイズのフライヤーを制作する場合は以下のような設定になります。



※上の画面は Adobe Photoshop CS2 です。

デザインデータの作成の注意点 Photoshop 編

Photoshop での塗り足し

CASE1

<デザインデータ>



背景の画像が塗り足し部分まであり、文字も仕上がり位置から 3mm 内側に入っています。赤いガイド線が仕上がり位置です。

<印刷仕上り>



断裁したときにきれいに、仕上がりどおりに、切り取られています。

CASE2

<デザインデータ>



文字は仕上がり位置より 3mm 内に入っていますが、塗り足しを作っていないデザインです。

<印刷仕上り>



仕上りの端に紙白が出てしまいます。仕上げで断裁するときに微妙にズレる為に、印刷されていない紙の部分が覚えて起こる現象です。

CASE3

<デザインデータ>



塗り足し部分に色は入っていますが、文字が断裁面にかかっているデザインです。

<印刷仕上り>



塗り足しは問題ないのですが、仕上げで断裁したときに文字が切れてしまいます。文字切れを防ぐためには仕上がりより 3mm 中に入れて下さい。

デザインデータの作成の注意点 Photoshop 編

レイヤーについて

レイアウトソフトにて透明効果を生かした画像を扱う場合、ネイティブ形式の psd データを配置・埋め込みますが、フォトショップ上にて入力した文字などはラスタライズ化で事前に画像にしてください。

文字情報が活きたままデータ入稿されますとお客様と弊社内のフォント環境が違いますので処理できない場合があります。

レイヤー統合を行うと、フォントもラスタライズ（画像化）されるため、フォントのアウトラインの作成は必要なくなります。

👉 複数レイヤーの統合方法

複数のレイヤーは統合



レイヤーメニューの「画像を統合」を選択



レイヤーは、一枚の背景レイヤーに統合されます。



⚠️【ご注意ください】

「画像を統合」を行なうと文字の編集が出来なくなります。
必ず統合前のデータは残しておいてください。

デザインデータの作成の注意点 Photoshop 編

クリッピングパス（切り抜きマスク画像）について

平滑度は“0.2”デバイスピクセルと入力をお願いいたします。100まで入力できますが、100とした場合、切り抜きの曲線が活かされず、カクカクした切り抜きとなります。WindowsのPhotoshopでよくあります。

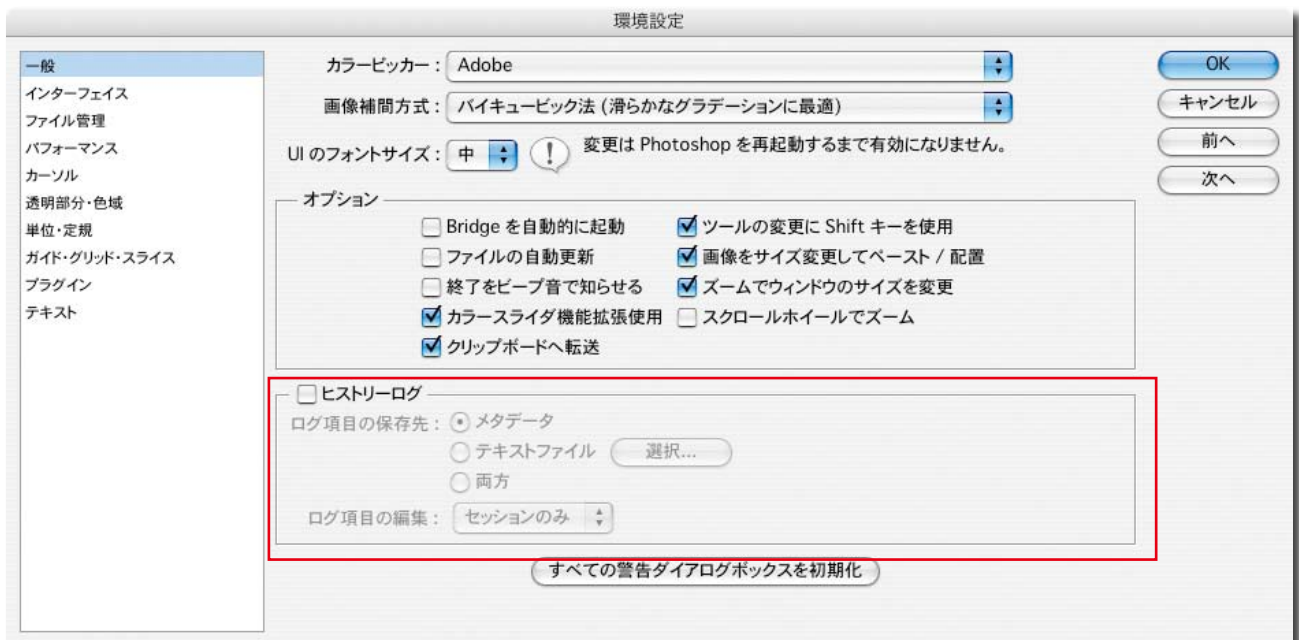
画像の領域からはみ出したクリッピングパスを作成した場合、まれに弊社内部のシステムでうまく対応できない場合がありますので、はみ出さないようにパスを作成してください。



保存形式

埋め込み出来る形式として多種ありますが、弊社システム内で対応できない場合がありますので、psd、tiff、eps、jpgの使用をお願いいたします。

また保存時のオプションでメタデータにヒストリーログが保存されている場合も処理できませんので、ヒストリーログと一緒に保存しないでください。(Photoshop 環境設定参照)



※ヒストリーログにはチェックを入れないでください

デザインデータ作成時の注意点

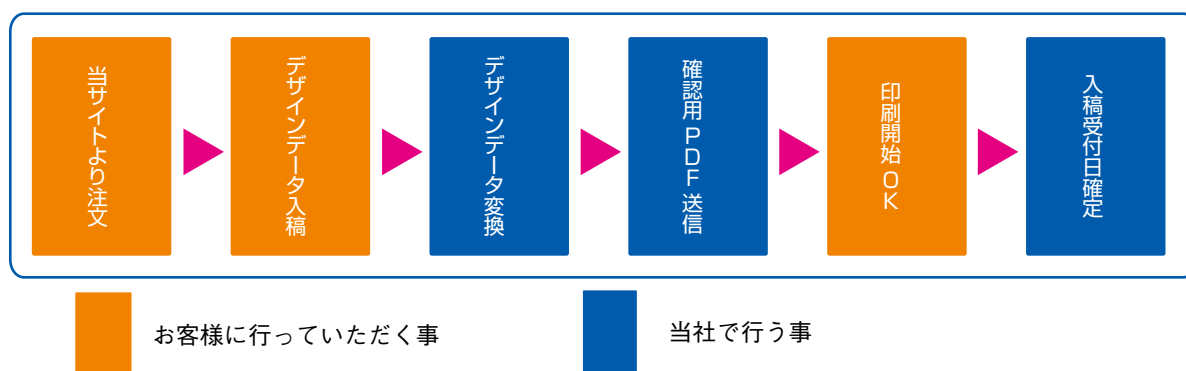
Office 編

デザインデータの作成の注意点 Office 編

Office 系アプリケーションはオフセット印刷向けに作られたソフトではないため、そのままのデザインデータで印刷することはできません。この時データ変換システムを使用して印刷用データに変換して印刷を可能にしています。

この変換時に色味の変化や体裁崩れなどが起きますので、次にご説明する点を注意してデザインデータを作成してください。

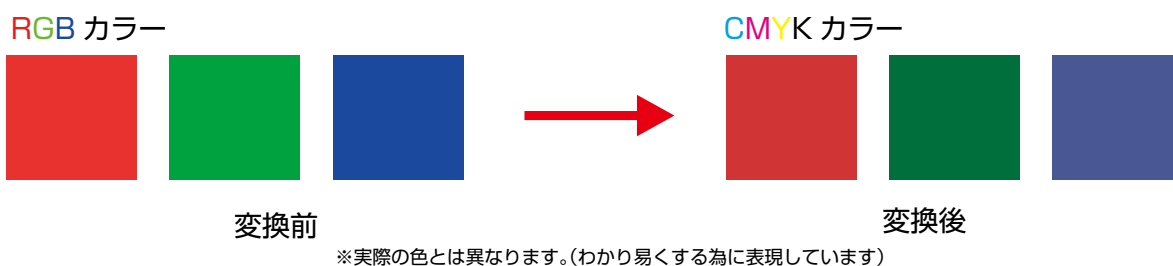
※問題が 100% なくなる訳ではありません。変換後の PDF ファイルをお客様にメールで必ずお送りいたしますのでご確認頂き、印刷開始 OK のご連絡をお客様からメールで頂いてからの納品スケジュールとなります。



色が変わる

Office 系データのカラーモードは RGB であり、オフセット印刷のカラーモードの CMYK に変換すると色合いが変わることがあります。

RGB 特有の蛍光色のような色は、場合によってかなりくすむこともありますので、あらかじめご了承下さい。(印刷の基礎知識で説明しております)



塗り足しについて

Office 系データは、「塗り足し」の設定が出来ません。余白なしてギリギリまで背景に画像や塗りがある場合、拡大での対応となりますので、文字は 5mm 程度内側に配置して下さい。

デザインデータの作成の注意点 Office 編

フォントが置き換わる

当社にない書体(フォント)で制作されたデザインデータの場合、デザインデータ変換後に異なるフォントに置き換えられます。これは制作環境および対応フォントの違いにより発生するものです。ご注文の際は必ずご使用の OS・バージョン・使用ソフトを正しく入力の上、ご使用のフォントが当社対応のものかどうかをご確認いただけますようお願いいたします。
※当社対応のフォント対応状況をご覧ください。

Office

変換前

Office

変換後

意図しない改行が発生する

デザインデータの文章中に、意図しない改行が発生してしまう場合があります。これは主に制作環境の違いからくるものですので、ご注文時には必ずご使用の OS・バージョン・使用ソフトを正しく入力いただけますようお願いいたします。

- デザインデータ作成時の注意点です
- 意図してないフォントの改行に注意

変換前

- デザインデータ作成時の注意点です
- 意図してないフォントの改行に注

変換後

透明効果について

透明効果を使用しているデザインデータの場合、正常に変換が行なえません。Office アプリケーション固有の機能に依存する効果は失われることもありますのでご注意ください。



変換前



変換後



株式会社 イメージパーク

IMAGE PARK

仙台本社 〒984-0001 仙台市若林区鶴代町 4 番 12 号
TEL. 022-236-7202(代) FAX. 022-284-8895
URL.<http://www.imagepark.co.jp/>

盛岡支店 〒020-0863 盛岡市南仙北 3 丁目 5 番 6 号
TEL. 019-635-8651(代) FAX. 019-635-8644
URL.<http://www.spip.jp/>

デザイン室 〒980-0011 仙台市青葉区上杉 1 丁目 4 番 10 号庄建上杉ビル 4F
TEL. 022-215-5030(代) FAX. 022-215-5033
URL.<http://www.imagepark.co.jp/designroom/>

(株)ワールドフジ 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町 4328 番地
TEL. 045-933-8322(代) FAX. 045-933-8370
URL.<http://www.worldfuji.com/>

 **022-236-7202**

受付時間：平日AM9:00～PM6:00 [土・日・祝日休]

